

仁科記念財団

—事業の概要—



財団法人 仁科記念財団

§1 仁科記念財団の設立とその後の経過

§2 仁科記念財団の目的と理念

§3 事業の概要

役員名簿

付 録

仁科記念賞受賞者とその業績

仁科研究奨励金贈呈先一覧

海外派遣研究者一覧

☆表紙写真は仁科記念賞の銀メダル

(仁科博士の肖像レリーフ)

純銀 径 102mm 厚さ 9mm

重さ 約 700g (径80mmに縮写)

作者 圓 鋳 勝 三 氏



仁科芳雄博士 (1890. 12. 6—1951. 1. 10)

仁科芳雄博士 (1890. 12. 6—1951. 1. 10)

博士は岡山県に生まれ、東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業後、理化学研究所に入り、1921年渡欧、1923年より1928年まで当時原子物理学の中心であったコペンハーゲンのボーア教授のもとで研究した。1928年クラインとともにディラックの相対論的量子力学に基づき、ガンマ線の電子による散乱に関する有名なクライン—仁科の式を導いた。帰朝後、量子力学、原子核物理学等、当時急速に展開した新しい原子物理学をわが国に育てることに力をつくした。湯川教授の中間子論、朝永教授の電磁量子力学をはじめとするわが国の理論物理学、また原子核、宇宙線の実験的研究の発展は仁科博士の指導と励ましに負うところが多い。博士みずからは、戦前理化学研究所に当時世界最大と称せられたサイクロトロンを建設したが、戦後占領軍によって東京湾に沈められた。

戦後、理化学研究所長として、また株式会社科学研究所社長としてわが国の科学技術の再建に尽瘁したが、不幸にも途半ばにして病をもって逝去された。

博士は1946年文化勲章を受け、1948年日本学士院会員となられた。

§1 仁科記念財団の設立とその後の経過

仁科芳雄博士の没後、博士の偉大な業績を記念し、博士の遺志をつぎ、原子物理学の基礎的研究とその応用にわたり有為な研究者を力づけ励ます事業を行うべく、当時の吉田茂首相を会長として設立発起人会が結成され、1955年に財団法人仁科記念財団が設立されました。

この設立に当たっては、わが国財界から寄付金 2,165 万円、国内の個人の寄金 234 万円、海外の学者からの寄金 100 万円、計約 2,500 万円をその基金としました。



第1回仁科記念講演会 壇上は渋沢敬三理事長

1955年12月6日、ヤマハホールにて



朝永振一郎博士

1965年、ノーベル賞の受賞が発表された時

1960年には第2次募金、さらに1969年から1976年にわたって第3次募金、1980年から第4次募金を行い、現在約4億5千万円の基本財産に達し、その果実によって財団の活動を営んでおります。

財団の創立に当たっては、渋沢敬三氏が理事長としてその基礎の確立に尽力され、渋沢氏の逝去後は朝永振一郎博士が理事長を襲い、1979年7月逝去の日まで財団の発展のために心を砕かれました。渋沢、朝永両氏の遺志を受け継ぎ、仁科博士を記念するにふさわしい活動を発展させることは、現在財団の運営に当たるもの一同の切なる願いであります。

§2 仁科記念財団の目的と理念

本財団は「故仁科芳雄博士のわが国、および世界の学術文化に対する功績を記念して原子物理学、およびその応用を中心とする科学技術の振興と学術文化の交流を図り、もってわが国の学術、および国民生活の向上発展、ひいては世界文化の進歩に寄与すること」(財団法人仁科記念財団寄付行為)を目的としています。

仁科博士は、量子力学以後の近代物理学の発展においてみずから世界的な業績をあげられたのみならず、当時世界の中心から離れてはるかに後れていたわが国の科学を世界的水準に引き上げるために絶大な貢献をされました。さらにまた敗戦後のもっとも困難な時期においては、科学技術の再建こそわが国復興の基礎であるという固い信念をもってみずから難事に当たり、同僚、後輩を鼓舞されました。

博士の遺志を受け継ぎ、上記の目的を遂行するために本財団は後に記すような種々の事業を行っております。

本財団が設立されてから25年、その間わが国の社会情勢、経済情勢は著しく変化し、科学技術の発展も当時必ずしも予見できなかったひろがりを見せています。その一方、新たな問題があらゆる方面に生起しつつあります。本財団の目的とする原子物理学、およびその応用を中心とする科学技術の振興についていえば、巨大科学としての発展がようやくわが国でもその軌道にのり出した反面、地味な

基礎的研究の活動を励まし援助することは必ずしも十分ではありません。

大学等研究機関における研究について、民間の財団による援助は国費によるものとは異なった面において、これを補うのにきわめて有効であります。

戦後数十年の間には、半導体、超伝導、レーザー等の革新的技術、また幾多の新しい材料の開発、また医学、生物学の急速な展開にはまことに驚くべきものがありますが、これらの発展もすべて原子物理学の基礎の上に立っています。さらにまた、その将来もこれに負うものであります。

このような見地から本財団の目的とする原子物理学の基礎的研究、およびその応用に対する支援は、今後ともいっそう重要な意味をもつものであります。

§3 事業の概要

1. 仁科記念賞

仁科記念賞は原子物理学、およびその応用の分野できわめて優秀な成果をおさめた研究者に贈るものであります。1955年以来の受賞者、およびその業績は付録に掲げられています。仁科記念賞の意義は、わが国の学界においてすでに確立され、研究者の大きなはげましとなっています。受賞者の中には後にノーベル賞を受けた江崎玲於奈氏をはじめ学士院恩賜賞、学士院賞等を受けている人が少なく

ありません。

2. 仁科学研究奨励金

原子物理学、およびその応用に関する研究に対し、毎年数件 400 万円程度を援助してきましたが、1980年度からはこれを一時停止して、そのかわり小規模の国際的研究集会を援助しました。予算に余裕ができれば個人研究の奨励も復活させたいと考えております。

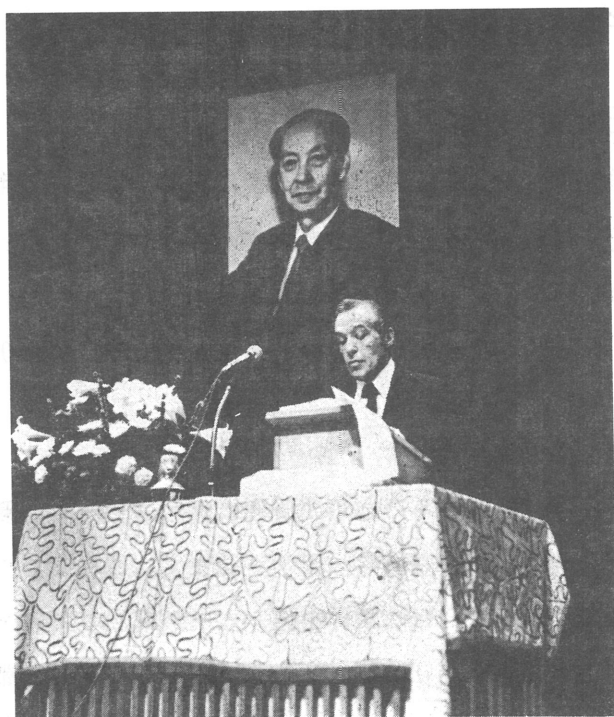
3. 研究者の海外派遣

原子物理学、およびその応用の研究にたずさわる若い優秀な研究者を毎年 2 名ないし 3 名海外に留学させます。これまでに派遣された研究者の中から、今日の学界を担う人々が輩出しています。

当初は 1 年間限りでしたが、条件によって 2 年までの滞在をみとめることにし、このための予算を増やしました。先方の負担に頼らない自主的な研究者派遣はこれからますます重要になると考えられますので、今後、さらにこれを強化する方針であります。

4. 海外からの学者招聘

本財団は海外のすぐれた学者を招聘し、各地で講演会を行い、わが国の研究者との討論、交流を進めてきました。これまでに来日したおもな学者はスウェーデンのクライン教授、ドイツのハイゼンベルグ教授、メスバウアー教授、デンマークのオーゲ・ボーア教授、アメリカのブロック教授、シュウィングー教授、イギリスのパイエ



朝永博士追悼講演会シュウィンガー教授
1980年7月8日、日仏会館ホールにて

ルス教授、アメリカの呉健雄女史、オランダのトホーフト教授、アメリカのバーディーン教授らであります。

シュウィンガー教授は故朝永博士とともにノーベル賞を受けられた方で、朝永博士の一周忌に追悼講演をされ、深い感銘を与えました。

今後、このような学者招聘を活発に行い、わが国の研究者の活動を助けたいと考えています。

5. 仁科記念講演会

仁科博士の誕生日である12月6日に定例の記念講演会を行うほか、すぐれた学者の来訪の機をとらえ随時講演会を行っています。また、東京以外での講演会はしばらく行われませんでした。これを復活し専門研究者ばかりでなく学生、または一般の人々に向けて、原子物理学に関連する基礎的な問題、最近の進展についての平明な講演を行い、歓迎されております。

6. 仁科記念室および朝永記念室

財団の事業の一つとして経営している仁科記念文庫は、故仁科博士の蔵書および没後寄贈された書籍を根幹として、日本アイソトープ協会4号館(旧理研37号館)2階の仁科記念室におかれています。寄贈書のなかには、スウェーデンのクライン教授のご好意による初年度以来のノーベル賞年報があります。仁科博士の居室であったこの仁科記念室には、戦前戦中の原子物理学の研究と戦後の科学技術復興に関する貴重な資料が保存されており、これと理化学研究所の資料室で発見された30年代初期の資料との整理を行いつつあります。また、朝永博士の没後、朝永記念室を設け、資料の収集保存にあたりました。これらの資料はわが国の原子物理学、理論物理学の歴史を物語る重要なものであります。

役 員 名 簿

(昭和 59 年 9 月現在)

理 事 長	久保 亮五					
常 務 理 事	玉木 英彦	宮崎友喜雄				
理 事	芦原 義重	安藤 豊祿	飯尾 正宏	鹿島昭一		
	稲山 嘉寛	井上 薫	太田新太郎	鎌田 甲一		
	茅 誠司	佐波 正一	田島 英三	南部 政二		
	野地 紀一	鳩山 道夫	浜田 達二	林 主税		
	土方 武	平岩 外四	藤吉 次英	堀田 庄三		
	三田 勝茂	宮島 龍興				
監 事	池田 長生	小山 五郎	佐々木秋生	瀬川美能留		
評 議 員	赤堀 四郎	芦原 義重	有山 兼孝	安藤 豊祿		
	飯尾 正宏	池田 長生	鹿島昭一	石橋幹一郎		
	伊藤 達二	稲山 嘉寛	井上 薫	岩佐 凱実		
	植村 泰忠	江戸 英雄	太田新太郎	小田 稔		
	鎌田 甲一	上坪 宏道	茅 誠司	木村健二郎		
	久保 亮五	小谷 正雄	小林 稔	小山 五郎		
	坂井 光夫	佐々木秋生	佐波 正一	杉本 正雄		
	瀬川美能留	関本 忠弘	竹内 枉	竹中 鍊一		
	田島 英三	玉木 英彦	中根 良平	南部 政二		
	西川 哲治	西島 和彦	西村 純	野地 紀一		
	鳩山 道夫	花村仁八郎	浜田 達二	早川 幸男		
	林 主税	土方 武	平岩 外四	弘世 現		
	福井 伸二	藤井 忠男	伏見 康治	藤吉 次英		
	堀田 庄三	三浦 功	三田 勝茂	宮崎友喜雄		
	宮島 龍興	向坊 隆	山崎 敏光	山本源左衛門		
	芳田 奎司	和田 昭允				
顧 問	村越 司					

仁科記念賞受賞者とその業績

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1955	大阪大学理学部 緒方 惟一氏	大型質量分析器の完成
	大阪市立大学理学部 西島 和彦氏	素粒子相互変換
1956	大阪大学理学部 芳田 奎氏	反強磁性体における磁気異方性エネルギー
	東京大学農学部 三井 進午氏	同位元素による植物の栄養ならびに土壤肥料学的研究
	農業技術研究所 西垣 晋氏	
	// 江川 友治氏	
1957	蚕糸試験場 潮田 常三氏	
	東京大学理学部 久保 亮五氏	非可逆過程の統計力学
1958	大阪大学理学部 杉本 健三氏	原子核の励起状態の磁気能率、および電気四極子能率の測定
	東京教育大学理学部 沢田 克郎氏	電子ガスの相関エネルギーに関する研究
1959	ソニー株式会社 江崎玲於奈氏	エサキダイオードの発明、およびその機能の理論的解明
	理化学研究所 中根 良平氏	化学交換反応による同位元素濃縮
1960	大阪府立大学理学部 吉森 昭夫氏	磁性結晶におけるスピンのらせん状配列の理論
1961	東京大学原子核研究所 丹生 潔氏	中間子多重発生の火の玉模型
	名古屋大学理学部 福井 崇時氏	ディスチャージチェンバーの研究と開発
	大阪市立大学理学部 宮本 重徳氏	
	京都大学理学部 松原 武生氏	量子統計力学の方法
1962	名古屋大学プラズマ研究所 高山 一男氏	低密度プラズマの研究——特に共鳴探針法の発明
	工業技術院電気試験所 佐々木 亘氏	ゲルマニウムの熱い電子の異方性の研究
1963	京都大学理学部 林 忠四郎氏	天体核現象の研究

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1964	東京大学理学部 岩田 義一氏	静電磁場における電子、およびイオン運動に関する研究
	東京教育大学光学研究所 瀬谷 正男氏	真空分光計に関する研究
1965	京都大学教養部 三谷 健次氏	弱電離プラズマのサイクロトロン周波数における負吸収の研究
	名古屋大学プラズマ研究所 田中 茂利氏	
	大阪市立大学理学部 三宅 三郎氏	宇宙線ミュー中間子およびニュートリノの研究
1966	東京大学宇宙航空研究所 小田 稔氏	S C O-X-1 の位置決定
	東京大学物性研究所 豊沢 豊氏	固体光物性の動力学的理論
1967	広島大学理学部 小川 修三氏	基本粒子の対称性に関する研究
	東京大学原子核研究所 山口 嘉夫氏	
	東京大学宇宙航空研究所 西村 純氏	超高エネルギー相互作用における横向き運動量の研究
1968	九州大学理学部 森 肇氏	非平衡状態の統計力学
	工業技術院電気試験所 近藤 淳氏	希薄合金の抵抗極小の解明
1969	大阪大学教養部 松田 久氏	原子質量精密測定用大分散質量分析装置の開発
	名古屋大学プラズマ研究所 池地 弘行氏	イオン波エコーの研究
	京都大学理学部 西川 恭治氏	
1970	学習院大学理学部 木越 邦彦氏	炭素-14による年代測定に関する研究
	東京大学理学部 西川 哲治氏	線型加速器に関する基礎研究
1971	東京大学原子核研究所 菅原 寛孝氏	基本粒子の対称性の応用
	ミュンヘン工科大学 森永 晴彦氏	インビームスペクトロスコピーの創出と原子核構造の研究

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1972	テンプル大学物 川崎 恭治氏 理学科	臨界現象の動力学的理論
	東北大学理学部 真木 和美氏	超伝導体の理論的研究
1973	京都大学数理解 中西 襄氏 析研究所	場の量子論における散乱振幅の諸性質の分析
	京都大学基礎物 佐藤 文隆氏 理学研究所	重力場方程式の新しい厳密解の発見とその宇 宙物理学への応用
	広島大学理論物 富松 彰氏 理学研究所	
1974	大阪大学教養部 大塚 頼三氏	半導体電子輸送現象のサイクロトロン共鳴によ る研究
	ニューヨーク市 崎田 文二氏 立大学	素粒子の超多重項理論および二重性理論の研究
1975	東京大学理学部 山崎 敏光氏	核磁気能率における中間子効果の発見
	東京大学物性研 花村 榮一氏 究所	多励起子系の理論的研究
1976	九州大学理学部 磯矢 彰氏	静電高圧加速器の研究とその新機軸の開発
	ロチェスター大 大久保 進氏 学理学部	強い相互作用による素粒子反応に対する選択規 則の発見
	名古屋大学理学 飯塚重五郎氏 部	
1977	東京大学物性研 塩谷 繁雄氏 究所	ピコ秒分光法による半導体の高密度励起効果の 研究
	京都大学基礎物 牧 二郎氏 理学研究所	素粒子の四元模型
	筑波大学物理学 原 康夫氏 系	
1978	分子科学研究所 廣田 栄治氏	高分解能高感度分光法によるフリーラディカル の研究
	東京大学理学部 有馬 朗人氏 東京大学原子核 丸森 寿夫氏 研究所	原子核の集団運動現象の解明

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1979	東京大学物性研 守谷 亨氏 究所	遍歴電子強磁性の理論
	高エネルギー物 小林 誠氏 理学研究所	基本粒子の模型に関する研究
	東京大学原子核 益川 敏英氏 研究所	

(受賞者の所属は受賞時のものによる。)

仁科研究奨励金贈呈先一覧

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1956	大阪大学理学部 山部昌太郎氏	陽子の軽原子による非弾性散乱の角度分布
	小林理学研究所 加藤 範夫氏	結晶完全度に関するエックス線の研究
	東京大学応用微 宮地 重遠氏 生物研究所	トレーサーによる光合成の研究
1957	大阪大学理学部 渡辺得之助氏	中性子線回折研究用モノクロメーター
1958	名古屋大学農学 斎藤 哲夫氏 部	トレーサーによる殺虫剤の作用機構に関する研究
	大阪市立大学理 斎藤 喜彦氏 工学部	エックス線の異常分散の結晶構造解析への応用
1959	東京大学教養学 石黒 浩三氏 部	極端紫外領域における固体の光学的研究
	東京大学大学院 石塚 浩氏 学生	直線型プラズマ加速装置
	立教大学理学部 道家 忠義氏	低エネルギー重荷電粒子の各種気体に対する電離効率の研究
	東京大学原子核 藤本 陽一氏 研究所	宇宙線の起源
1960	〃 小柴 昌俊氏	
	理化学研究所 鎌田 甲一氏	空気シャワーの高度変化

年度	贈	呈	先	研 究 題 目
1960	東京大学原子核研究所	小田	稔氏	^{14}C 定量による長期間の宇宙線強度変動の測定
	工技院名古屋工業技術試験所	榎本	茂正氏	β 線による蛍光X線とその工業への応用
	東京大学医学部	宮川	正氏	中性子捕獲療法の一変法について——硼素コロイド使用
1961	東京大学理学部	武部	啓氏	微生物における放射線感受性の機構
	関西学院大学理学部	富家勇次郎氏		極低温単結晶構造解析とクライオスタット製作
	大阪市立大学理学部	三宅	三郎氏	2000米以上の深さにおけるミュー中間子の測定
1962	東京大学理学部	有馬	朗人氏	原子核構造の殻模型による研究
	東北大学電気通信研究所	西沢	潤一氏	強電界半導体中におけるキャリアの拡散
	北海道大学理学部	三井	利夫氏	X線によるチタン酸バリウム系強誘電体の格子振動の研究
1963	大阪大学教養部	松田	久氏	分解能1000万程度の質量分析器の製作と測定
	東京大学教養学部	高木佐知夫氏		固体内電子のプラズマ振動と電子線の非弾性散乱の研究
	九州大学工学部	米田	泰治氏	X線の異常表面反射効果に対する研究
1964	東京工業大学	池上	栄胤氏	極低エネルギー電子の検出と原子核の微細構造
	東京大学教養学部	真隅	泰三氏	ポーラロンの研究
	名古屋大学理学部	大西	勁氏	生体膜におけるイオン輸送機構の研究
1965	東京大学教養学部	藤原	邦男氏	陽電子消滅法による固体内電子の運動状態の研究
	学習院大学理学部	長谷川博一氏		海底堆積物中の長寿命宇宙線生成物の研究
	名古屋大学理学部	三浦謹一郎氏		転移リボ核酸のアミノ酸暗号翻訳機構

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1966	東京大学教養学 伊藤 隆氏 部	放射線による突然変異誘発機構の研究——特に分子鎖仮説につき
	東北大学理学部 斎藤 一夫氏	金属錯化合物の同位体交換反応の研究
	大阪大学理学部 大塚エイ三氏	半導体中の電気的雙極子による電子散乱の研究
	東京大学物性研 小林 晨作氏 究所	偏極 ^{59}Co 核と偏極中性子との相互作用
1967	東北大学科学計 井上 鋒明氏 測研究所	高速イオンの弾性散乱の研究
	大阪市立大学理 勝俣 五男氏 学部	イオンセンシティブプローブ（磁場中プラズマのイオン温度測定法）の研究
	東京都立大学理 久米 潔氏 学部	高感度磁気共鳴法による Kondo 効果の研究
	東京大学理学部 和田 昭允氏	分子遺伝情報の電子顕微鏡による直接読み出し
	東京大学理学部 山崎 敏光氏	核反応による核整列：電磁気能率と核外場の相互作用
1968	立教大学理学部 白土 鈔二氏	速中性子による重陽子崩壊反応における終状態相互作用の研究
	京都大学理学部 宇田川 猛氏	対相関に基づく原子核の集団励起に関する研究
	お茶の水女子大 佐野 博敏氏 学理学部	メスバウアー分光学による分子間、および分子内結合状態の研究
	金沢大学理学部 阪上 正信氏	U-237、Th-231 に関する放射化学的研究
	大阪大学理学部 沢田 康次氏	超音波による金属、半金属の電子的性質の研究
	学習院大学理学 川路 紳治氏 部	InAs, Ge の真空中劈開面における二次元異常電気伝導の実験
	大阪大学理学部 小川 英行氏	DNA 障害修復の分子機構
1969	名古屋大学工学 梅野 正義氏 部	電子—正孔プラズマの強磁場伝導現象の研究
	京都大学工学部 岡村 誠三氏	イオン—分子反応による放射線重合の初期過程の研究
	東京大学物性研 小林 浩一氏 究所	イオン結晶の磁気光効果——ポーラロンからなるエキシトンおよびランダウ準位の研究

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1969	東京大学工学部 国府田隆夫氏	外場効果によるイオン結晶中の励起子状態の研究
	東京大学理学部 須田 英博氏	超高エネルギー μ 中間子束の研究
	理化学研究所 小林 駿介氏	遠赤外レーザーによる半導体の光伝導に関する研究
	東京大学理学部 富永 健氏	ラジオガスクロマトグラフ法による無機化合物および有機金属化合物の放射化学的研究
	東京大学医科学 吉川昌之介氏 研究所	細菌における染色体外性遺伝子 (Plasmids) 相互間の反応——特に R 因子を中心にして
1970	九州大学理学部 廣田 栄治氏	遠赤外レーザー分光による不安定分子フリーラディカルの研究
	大阪大学蛋白質 栗木 芳隆氏 研究所	蛋白質合成系における GTP 加水分解反応と translocation の共軛機構の研究
	東京大学工学部 堂山 昌男氏	陽電子消滅法による超高压下の金属、合金、および半導体のフェルミ面の研究
	京都大学工学部 吉田 善一氏	金属同位元素によるボルフィリン錯体に関する研究
	東京大学物性研 生嶋 明氏 究所	液体ヘリウムにおける臨界揺動の研究
	立教大学理学部 阮 建治氏	単一 Ge 結晶マルチゴニオメータの製作と応用
	東京大学教養学 原田 義也氏 部	光電子分光法の分子性結晶への応用
	北海道大学理学 相原 惇一氏 部	オキソカーボン (Oxocarbon) 類の固体物性の研究
1971	大阪大学微生物 竹田 美文氏 病研究所	アミノアシル転移 RNA 合成反応の研究
	東京大学教養学 桜井 捷海氏 部	レーザーと光子計数法による光子相関を用いた原子分子のエネルギー準位の研究
	九州大学理学部 間瀬 正一氏	強磁場中の半金属におけるエキシトニックフェーズの研究
	東京大学理学部 中井 浩二氏	超微細相互作用と不安定核モーメント

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1971	京都大学工学部 宇尾 光治氏	ヘリカルヘリオトロン磁場の性質に関する理論的研究
	東京大学理学部 藤原 鎮男氏	無機錯体のガンマ線照射により生成するホットイオンの研究
	東京工業大学理学部 川久保達之氏	非平衡系のゆらぎ現象に関する実験的研究
	理化学研究所 高橋 旦氏	液体キセノンを用いた多線陽極比例計数管の試作
1972	福井大学工学部 神藤 洋爾氏	螢光円二色性測定装置の試作と光学活性物質の構造解明への応用
	東京大学物性研究所 大林 康二氏	揺動および緩和現象の量子光学的研究
	京都大学原子炉実験所 東村 武信氏	極低温を用いた凝縮相放射線化学の初期過程の研究
	東京大学教養学部 青木 禎氏	励起された原子分子集合体のコヒーレンス状態の研究
	東京大学理学部 清水 忠雄氏	レーザー二重共鳴法によるダイナミカルな分子過程の研究
	東京教育大学理学部 内野倉国光氏	混晶の二次ラマン散乱による研究
	お茶の水女子大学理学部 丸山 有成氏	トンネルスペクトロスコピーによる固体有機物の電子状態の研究
	岡山大学温泉研究所 酒井 均氏	鉱物-水間の ^{18}O の分配の実験的理論的研究とその地球化学的応用
1973	大阪大学理学部 音在 清輝氏	原子遷移による核励起の研究
	大阪大学基礎工学部 西田 良男氏	遠赤外レーザーによる励起子の分光的研究
	電気通信大学 井上 雅夫氏	イオンサイクロトロン共鳴による原子量の精密測定
	東北大学金属材料研究所 後藤 武生氏	二次元半導体における高密度励起子効果

年度	贈	呈	先	研 究 題 目
1973	東京都立大学理 学部	藤山	常毅氏	光散乱の微細構造の観測と液体構造
	富山大学薬学部	北川	泰司氏	過冷却微粒子の生成に関する研究——ノズル・ ビーム法の適用
	東京大学原子核 研究所	小川	建吾氏	原子核集団運動の殻模型による理論的研究
1974	九州大学工学部	俵	博之氏	高電離重イオン衝突における内殻電離機構の研究
	大阪大学理学部	邑瀬	和生氏	ラマン散乱によるフォノン—プラズモン結合モ ードの分散関係の研究
	東北大学金属材 料研究所	富吉	昇一氏	電子ライナックを用いたパルス法中性子非弾性 散乱による遷移金属、非晶体等の高いエネルギー 励起状態の研究
	東京大学理学部	平川	浩正氏	中性子星からの重力波の検出に関する研究
	東京大学工学部	氏平	祐輔氏	ポジトロニウムの反応に関する研究
	広島大学理学部	尾田	年充氏	高密度プラズマからの He II スペクトル線のシ ュタルク・ブロードニングの測定
	青山学院大学理 工学部	中村	弘氏	$\alpha + D \rightarrow \alpha + n + p$ 反応の分析
1975	東京大学教養学 部	酒井	純氏	赤外レーザーによる分子の非線形分光
	金沢大学工学部	清水	立生氏	非晶質半導体に対する不純物の影響
	京都大学原子炉 実験所	前田	豊氏	偏極 γ 線によるヘム蛋白の電子状態の研究
	東北大学理学部	吉原	賢二氏	インプランテーションによる新化学種の生成と その化学性、物性の研究
	京都大学理学部	志田	忠正氏	γ 線照射によって生ずるイオンラジカルの電 子状態の研究
	広島大学総合科 学部	岡本	哲彦氏	強磁性臨界点近傍の動的スピン過程の光散乱に よる研究
	女子栄養大学栄 養学部	中山	博明氏	先駆体錯体を用いた一価金属イオンの気相反応 の研究

年度	贈	呈	先	研	究	題	目
1976	立教大学理学部	窪田	信三氏	電離放射線励起による同体、液体アルゴン、クリプトン、ゼノンの励起発光の実験的研究			
	埼玉工業大学電子工学科	深町	共栄氏	吸収端近傍におけるX線異常散乱の研究			
	東京大学教養学部	西川	勝氏	高密度炭化水素気体中の準自由原子のエネルギー			
	甲南大学理学部	香川喜一郎氏		レーザー光照射による色中心生成機構の研究			
	東京大学原子核研究所	坂田	文彦氏	球形核における非調和効果の微視的研究			
1977	広島大学理学部	桜井	醇児氏	希土類金属間化合物における希土類原子の不对電子と伝導電子部分波成分の間の磁気相互作用に関する輸送現象的研究			
	明星大学理工学部	菅野	等氏	高圧下での過冷却水溶液における同位体効果			
	山口大学工業短期大学部	鵜久森正毅氏		固体の強励起状態の研究			
	筑波大学物理学系	関根	智幸氏	二次元層状物質のラマン散乱			
	富山大学教育学部	清水	建次氏	希土類金属間化合物の核磁気共鳴			
1978	東北大学科学計測研究所	佐藤	幸紀氏	イオン衝撃による有機化合物の光学禁制励起電子状態の研究			
	大阪大学基礎工学部	西野	種夫氏	束縛多励起子の励起状態に関する研究			
	東京大学理学部	矢崎	紘一氏	中間エネルギー物理学—— π 中間子と原子核との相互作用を中心として			
	法政大学第二教養部	野矢	弘氏	重陽子の弾性および非弾性散乱における vector、および tensor analyzing power について			
	東京工業大学理学部	旗野	喜彦氏	パルスラジオリシス・マイクロ波空洞法によるペニングイオン化の研究			
1979	東京工業大学理学部	武谷	汎氏	核反応における制動輻射の検出と time delay			

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1979	お茶の水女子大 富永 靖徳氏 理学学部	光子相関分析法による非平衡開放系の研究
	東京大学理学部 長澤 信方氏	励起子、励起子分子による二次光学過程の研究
	新潟大学理学部 橋本 哲夫氏	アルファ反跳原子の固体表面での挙動に関する基礎研究
	山梨大学工学部 平岡 賢三氏	極薄膜固体 ($\leq 100\text{\AA}$) の低エネルギー電子線衝撃。エネルギー損失スペクトル、および励起発光スペクトルの測定

(贈呈先の所属は贈呈時のものによる。)

海外派遣研究者一覧

年度	派 遣 者	研 究 目 的	留学先
1956	小林理学研究所 森田 正人氏	原子核理論、素粒子論の研究	アメリカ
	東京大学教養学 松浦 二郎氏 部	超ウラン元素の化学的研究	フランス
1957	東京大学教養学 小出昭一郎氏 部	結晶内における遷移金属イオンの諸性質の理論的研究	イギリス
	東京大学農学部 麻生 末雄氏	ラジオアイソトープの農学分野における利用	アメリカ
1958	立教大学理学部 伊藤 隆氏	生物体におよぼす放射線の影響	アメリカ
1959	東京大学大学院 真隅 泰三氏 数物系研究科	固体電子工学の基礎物理的研究	アメリカ
	東京大学原子核 磯矢 彰氏 研究所	サイクロトロンによる核反応の研究	アメリカ
	東京教育大学理 池田 長生氏 学部	放射化学、分析化学に関する新しい知見、技術の研究	ドイツ
1960	理化学研究所 佐田登志夫氏	機械工業における RI の利用	アメリカ
	東京大学原子核 菅 浩一氏 研究所	空気シャワーの研究	アメリカ

年度	派遣者	研究目的	留学先
1961	東洋紡績(株)技術 上田 寿氏 研究所	放射線の固体高分子化合物中に生じたラジカルの電子スピン共鳴吸収による研究	アメリカ
	北海道大学理学 渡辺 宏氏 部	結晶内 ions を marker として local な性質を調べる	イギリス
1962	大阪大学理学部 近藤 道也氏	加速器、ことに A.V.F. サイクロトロンの研究	アメリカ
	電電公社電気通 新井 敏弘氏 信研究所	磁界中における半導体の光学的諸性質の研究	イギリス
1963	東京大学応用微 金井 竜二氏 生物研究所	同位元素を用いた光合成機作の研究	ドイツ
1964	東京都立大学理 金子洋三郎氏 学部	原子衝突の実験に関する研究	イギリス
1965	ソニー株式会社 森垣 和夫氏 研究所	半導体内の電子状態の研究	フランス
1966	大阪大学理学部 溝淵 明氏	Van de Graaff 型加速装置を用いた原子核反応による核構造の研究	アメリカ
	東京大学大学院 香村 俊武氏 理学系研究科	素粒子の原子核反応、重粒子間の相互作用の研究	イギリス
1967	京都大学理学部 牟田 泰三氏	場の理論における複合粒子の条件	イギリス
	東京大学原子核 黒田 育子氏 研究所	原子核(中重核)の多体問題的方法、およびその構造について研究	デンマーク
1968	東京大学理学部 池田 清美氏	原子核構造の種々の側面の理論的追究	ソ連, デンマーク
1969	東京大学理学部 山崎 昶氏	核磁気共鳴とその応用	ドイツ
1970	東京大学教養学 林 憲二氏 部	素粒子論ハドロンの変現	ドイツ
	東京大学原子核 永野 元彦氏 研究所	(1)水平シャワーの観測と解釈 (2)空気シャワーの芯の研究	ドイツ
1971	東京大学原子核 石原 正泰氏 研究所	インビーム γ 線を用いた原子核構造, 核反応の研究	スウェーデン

年度	派遣者	研究目的	留学先
1971	東京大学物性研究所 栗田 進氏	イオン結晶の遠赤外レーザーによるサイクロトロン共鳴、および帯間磁気光吸収の精密な測定により励起子および電子のポーラロン効果を研究	アメリカ
1972	東京工業大学理学部 八田 一郎氏	誘電体の相転移の動的機構	イギリス
	東京都立大学理学部 広瀬 立成氏	反核子偏極の測定及び $\bar{p}p$ 消滅における多重発生の研究	ドイツ
1973	東京大学理学部 永宮 正治氏	原子核の励起状態の電磁氣的性質の研究、および核スピンの物質中での超微細相互作用の研究	アメリカ
	東北大学工学部 海老沢丕道氏	(1)第二種超伝導体の輸送現象 (2)量子液体の磁氣的性質の研究	アメリカ
1974	東京大学理学部 高木 伸氏	液体ヘリウム3の異常相の理論的研究	イギリス
	大阪大学教養部 大山 忠司氏	高密度励起子系における凝縮相の安定性とバンド構造の関係の研究	アメリカ
1975	東北大学金属材料研究所 黒田 規敬氏	層状半導体における非線形磁気光学効果の研究	アメリカ
	大阪大学理学部 仲伏 廣光氏	二段二重収束質量分析装置による原子質量の精密測定——原子質量の精密測定用 RF 質量分析計の再建作業、およびこれによる原子質量測定の研究	オランダ
1976	東北大学理学部 新村 信雄氏	TOF 中性子回折法による過渡現象の研究	デンマーク
	京都大学理学部 松柳 研一氏	中重核における集団励起モードの微視的理論の研究	デンマーク
1977	京都大学基礎物理学研究所 山脇 幸一氏	光的量子化の特徴である波動函数を用いてハドロン共鳴の分類の研究	アメリカ
	大阪大学理学部 片山 信一氏	IV-VI族化合物半導体の構造相転移の研究	アメリカ

年度	派遣者	研究目的	留学先
1977	京都大学基礎物理学研究所 氷上 忍氏	相転移と臨界現象を理論的に研究	アメリカ
1978	筑波大学物理学系 外山 学氏	原子核反応の機構についての研究	アメリカ
	東京大学理学部 小野 義正氏	超流動 ^3He の輸送現象の研究	アメリカ
	東京大学宇宙線研究所 倉又 秀一氏	原子核乾板と他の測定器の複合装置を用いて行なわれるニュートリノ反応による新素粒子研究実験の参加	アメリカ
1979	大阪大学工学部 田口 常正氏	II-VI 半導体の格子欠陥の生成、消滅機構の研究	イギリス
	岡山大学工学部 東辻 浩夫氏	高密度プラズマの理論	アメリカ
1980	横浜国立大学教育学部 佐々木 賢氏	ノンレプトニック崩壊などの諸現象を量子色力学を用いて研究	アメリカ
	早稲田大学理工学研究所学生 玉田 雅宣氏	宇宙線を用いた超高エネルギー核衝突による新しい型の核相互作用の研究	ソビエト
	新潟大学理学部 鈴木 宜之氏	軽い核におけるクラスター構造と高励起エネルギーでの分子的共鳴	アメリカ

(派遣者の所属は派遣時のものによる。)

仁科記念賞受賞者とその業績（続き）

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1980	東北大学原子核 鳥塚 賀治氏 理学研究施設	原子核の巨大共鳴の研究
	大阪大学理学部 伊達 宗行氏	超強磁場の発生
	京都大学理学部 九後汰一郎氏	非可換ゲージ場の共変的量子化の理論
	プリンストン高 小嶋 泉氏 級研究所	
1981	東京大学教養学 杉本大一郎氏 部	近接連星系の星の進化
	高エネルギー物 吉村 太彦氏 理学研究所	宇宙のバリオン数の起源
1982	筑波大学理工学 安藤 恒也氏 学系	MOS 反転層における二次元電子系の理論的研究
	日立製作所中央 外村 彰氏 研究所	電子線ホログラフィー法の開発とその応用
1983	東京大学理学部 増田 彰正氏	希土類元素の微量精密測定と宇宙・地球科学への応用
	フェルミ国立加 山内 泰二氏 速器研究所	ウプシロン粒子の発見にたいする貢献

仁科研究奨励金贈呈先一覧（続き）

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参加者
1980	名古屋大学 早川 幸男氏 理学部	Symposium on Space Astrophysics, 1980年7月29日, 30日	国内11機関, 海外8機関よ り総員61名
1981	東京大学原 寺沢 英純氏 子核研究所 藤川 和男氏	1981 INS Symposium on Quark and Lepton Physics, Tokyo, 1981年6月 25日～27日	国内199名 国外22名
	東京大学理 有馬 朗人氏 学部	Symposium on Nuclear Collectivity, 1981年10月15日～17日	国内19名 国外6名
1982	大阪大学理 細谷 暁夫氏 学部	Symposium on Gauge Theory and Gravitation, 1982年8月21日～24日	国内152名 国外27名
	大阪大学 長谷田泰一郎氏 基礎工学部	International Meeting on Transition to "New Type of Ordered Phase", 1982年9月11日～13日	国内80名 国外37名
1983	大阪大学核 小方 寛氏 物理研究セ ンター	1983 RCNP International Symposium on Light Ion Reaction Mechanism, 1983年5月17日～20日	国内140名 国外44名
	東京大学物 中嶋 貞雄氏 性研究所	International Symposium on Founda- tions of Quantum Mechanics In the Light of New Technology, 1983年 8月29日～31日	国内120名 国外46名
	東京大学宇 三宅 三郎氏 宙線研究所	Cosmic Rays and Particle Physics, 1984年3月19日～23日	国内95名 国外30名

海外派遣研究者一覧（続き）

年度	派 遣 者	研 究 目 的	留学先, その他
1981	東京都立大学理学部 遠藤 和豊氏	同時計数メスバウア分光法により, 壊変によって生じる不安定な化学種の時間的推移をしらべる研究	ヨハネスグーテンベルク大学 (ドイツ)
	名古屋大学理学部 三宅 和正氏	超流動の物理の理論的研究	サセックス大学 (イギリス)
1982	東京大学大学院理学系研究科 手嶋 久三氏	anomalous Ward identity における発散の処理の再検討及び dynamical Higgs mechanism の模型と 100 GeV 領域の現象への反映	フェルミ国立加速器研究所 (アメリカ) 留学期間: 2 年間
	大阪大学理学部 城 健男氏	磁気体積効果等の物性の研究及び photoemission の実験で得られている動的な現象の理論的研究	インペリアル大学 (イギリス)
	早稲田大学理工学研究所 玉田 雅宣氏	宇宙線を用いた超高エネルギー核衝突による新しい型の核相互作用の研究	レベデフ物理学研究所 (ソ連), 1980 年度派遣 留学期間延長
1983	北海道大学工学部 住吉 孝氏	放射線化学初期過程の研究にピコ秒の時間分解能を有する電気伝導法を用い, 従来からの種々の高速分光法とあわせて詳細な解明をおこなう。	ハーン・マイトナー研究所 (西ドイツ)

財団法人 仁科記念財団

113 東京都文京区本駒込二丁目28番45号

電話 東京 946局 7111番（日本アイソトープ協会）

東京 942局 1718番（直通）